(1)

妆可黄

年の参加減少が言われる中

近年、諸活動への教会青

定 価 1部140円(本体133円〒共200円) 〒共 紙代のみ 3,500 円 振替 00140 本紙を購読ご希望の方は、前金を そえて、お近くのキリスト教書店 へお申し込み下さい。

教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546

> 内 藤 留 幸 竹 澤 知代志 発 行 人 編集主筆 印刷所 株式会社きかんし

> > 夏に集う若者たち2008

等リストと数金に企え

38年変わらぬ主題で、全国教会青年同盟修養会

仕える」との主題の下で行 紛争勃発時には生まれてい 影響を受け開催中止となっ 養会も゛キリストと教会に 経ようとしている。 その中 も含めて、聖別された恵み なかっ た教職リーダー たち で、参加青年はもとより、 てより、まもなく四〇年を 青年宣教会議が教団紛争の 時を分かち合った。 中高生キャンプも青年修 全国教会青年同盟 っかけとなった。

わゆる「九・一、二」で知 議の中止決定 (同年九月) ていた全国教会青年宣教会

九七〇年九月十三日、三崎 主催) に出席した教会青年 町教会を会場に結成式を行 による青年部結成の申し合 青年セミナー」(福音宣教会 年七月に開催された「全国 らによって結成された。同 い、集った百名近い全国の れてきたものである。 教会青年ならびに青年教職 全国教会青年同盟は、

年一〇月に開催が予定され その背景には、一九六九 に連帯して活動を推進す し、生涯を通じて教会に仕 年としての責任を深く自覚 難の時代のただ中で教会青 「聖書信仰の上にたち、多

わせが、青年同盟結成のき らの祈りと決意とが受け継 えてきた。 がれ、青年同盟の働きを支 況にあっても、 がなくなった。 続けた教会青年、 突入していった。その前年、 必要を痛感し、 総会が開催され、機構改正 会があり、教団は紛争へと により青年伝道専門委員会 一九六八年には第15回教団 熱意を持ち 青年伝道の こうした状 青年教職

青年同盟結成の目的は

| られる混乱した常任常議員 夏の青年修養会、

中高生キャンプとして行わ くの教職、信徒が協力して ために、チャプレン、リー れている。これらの働きの スタッフとして、

また、この働きを通して、

る」と謳われている。この 目的に適う活動として、春・

在のスタッフの多くもま

使命に与っている。

現

というビジョンが与えら の働きを西日本で展開する 盟出身の教職を中心に、

大きな力となることだろ

軽井沢を会場として、全国

での三日間、恵みシャレー

八月二〇日から二二日ま

| 結成以来、変わらずに守ら

教会青年同盟の主催による

教会青年夏の修養会」が

九六九年秋、全国教会

身キャンプは、従来高校生 合うことを続けてきた。 年来、中学生をも迎え入れ、 その働きを諸教会と分かち と題する機関誌を発行し、 自覚を持って、「教会青年. 門委員会の働きを継承する が対象であったが、ここ数 てきた。また、青年伝道専 ンプ、セミナー等が行われ 献

られてきた教職、 青年同盟によって育て 信徒であ 活動を展開している。 結成され、同じ目的に適う れ、西日本教会青年同盟が

食卓の交わりは修養会の華。しかし、未だ雰囲気は堅く、皆さん料理に 夢中。あまりおいしい食事は、却って交わりの妨げになるのかも。

ハとしての人間(アブラハム物語に聴く) 加者の内、

逃げようと思っても逃げられない道が

られた。 | える上で大いに刺激とな | るように御言葉の学びへと | 軽井沢の自然の中で、参加 信仰について、また、教会 を担う自覚を与えられるな 生との出会いと交わりは、 り、逆に青年にとって中高 ど、思わぬ形で恵みが与え 青年として信仰継承の課題 中高生献身キャンプで 導かれた。 私たちを知らず が備えられている。召命と と思っても逃げられない道 献身について、参加者それ 知らずのうちに導く「神さ まの声」がある。逃げよう ぞれが問われていることを

碓氷峠まで90分のハイキング、記念撮影後、名物の餅をいただく

四名を合わせて、三八名で

スタッフ、講師の教職ら十 参加が与えられ、リーダー、 中高生五名、青年二〇名の で、今回は、十六教会より、

発表することができた。 朝 員でスタンツにまとめ上 げ、最終日の全体会にて、 には、早天礼拝を守った後、 かさを存分に味わいつつ過

なのだろうか、常々疑問な

のだが、留学歴の掲載を希

望する遺族も少なくない。

プログラムであるが、燭火 とした。講演、分団等は別 フと青年修養会を同時開催 十数年ぶりに、 献身キャン 二日間を過ごした。また、

会青年との出会いと交わり

中高生にとって、教 聖別会等は合同で行

ブ主題により、創世記十二

章からアブラハム物語に聴

きつつ二回の講演がなさ

中高生らは引き込まれ

院長) を講師に迎え、「旅

人としての人間」というサ

は、小倉義明教師 (聖学院

進路や人生の目的を考

感じ取ることができたよう アブラハム物語を参加者全 に思う。二回の分団では、 賛美による燭火礼拝を守 青年修養会と合同で交祷と わう時を持った。晩には、 きにより御言葉を黙想し味 者各自、それぞれ教職の導 ことと思うが、一日目の夜 れぞれが抱きつつ参加した 聞き、献身の思いを深めた。 ではないか、との不安をそ 合い、主にある交わりの豊 には、中高生同士のみなら 誰とも話さずに終わるの 青年たちともうち解け 青年二人による証しを



告白をしている者が三人、 信仰者の家庭で育つ者が一 ごすようになっていた。参 それぞれの生活の座は 礼拝を守る教会は異 既に受洗、信仰 の志が語られることもあ 洗の決意や伝道者への献身 綴られている。この時、受 加者の名が何冊にも渡って ある。聖別帳には歴代の参 名を記すという厳粛な時で 央におかれた「聖別帳」に

高級店ということか。

加者一同が車座になり、三 たれた。これは、結成以来 会の合同で「聖別会」がも 中高生キャンプと青年修養 教会に仕える」決意を新た 日間の恵みを一人一人が語 ず守られてきたもので、参 青年同盟の修養会で欠かさ いを心に刻むため、座の中 最終日、閉会礼拝の中で 分かち合い、献身の思 中高生のクラス、左端が小倉義明講師。 揚げていますが、殻はお勧 も、出身地入り。板前さん 明確、即ち高級ブランド、 相を反映してなのか、それ 字数しかない。学歴が必要 学校が入る。 他の新聞でも の消息 (訃報) 欄に、故人 も産地を明らかにしなくて 員名札を付けている。 しか と気づいた。板前さんが全 地を明らかにする。 産地が 分からないが、いちいち産 滅多に入ることはないから とも、良い店はそうなのか、 知県の特大アサリ、殻ごと です」。「千葉の薩摩芋」。「愛 季節のものをいろいろと勧 紹介するのに、ごく僅かな 常識だ。その人物の一生を が働いた教会名の他に出身 がるかも知れない。 何々州出身とか、名札が下 だろうか。そのうち、カレ めしません」。 この頃の世 くいただく。「江戸前の穴子 気になりながらも、おいし められる。ちょっと勘定が はならない時代・世相なの の店などでも、インド ーに座った。 新報

仰によって生かされ、唯一 仲間との出会いは、今後の なってはいても、一つの信 のキリストに結ばれている 教職となった者もいる。 中には、ここでの決心から る。今回参加のリーダーの 高生と青年らの召命と献 身、その苦闘のために祈り

ある者は教職として、また

一九九九年には、

青年同

ある者は教会役員として、

「キリストと教会に仕え

多くの献身者を生み出し、

ಶ್ಠ

つし終えて、 大仕事を一

なされ、教会青年らは大い

主題に、実り豊かな学びが

に刺激を受け、「キリストと

屋のカウンタ 友人と天麩羅 たまの贅沢、

リストとの出会い」をサブ 講師に迎え、「イエス・キ

志教師 (玉川教会牧師)を

青年修養会は、竹澤知代

を合わせたい。 (林牧人報

報告、

「こころの友」「信徒

は可能。また、「こころの友」

道コラムの欄を設けること 定の公式ホームペー ジに伝

の範囲をもっと広く考えら 定されているが、放送伝道

報告があると思うが、私と

教会員の方々と共に合同祈 お伺いし、その後、役員・

しては、関連の社会福祉施

祷会を行った。

た。この会については別に

れないか、改めて検討した

に連載されている信徒の証

ſΊ

設において子供、

保護者、

山岡創報

の友」編集委員会報告

追講演会が、大島元村教会

響いた。 られ、

教団伝道委員会主催の伝

の基本に立って

議員会報告、宣教委員会報

教誨事業協力会幹事会

下のとおり。

★業務報告、

会計報告、

常

に関する件

教団が開設予

★放送伝道資金残金の使途

使い切れない。使途を放送

金は、この程度の使途では

しかし、放送伝道資金残

道講演会を開催した。 松戸

は大島元村教会を会場に伝

ねした。

委員会を夕方で終え、夜

師の牧する波浮教会をお訪

の一員でもある竹井真人牧

九日 (火) は伝道委員会

教会の石井錦一牧師をお迎

請がなかったので会議は前

今回は援助金、貸付金申

メディアに関わることと限

題して、お話をいただい えし、「伝道とわたし」と

会では教会の歴史と課題を 日のうちに終った。波浮教 35総会期第六回伝道委員会

の他の伝道に関する文章を

వ్య

集め、冊子化する作業を継

火)、東京教区大島元村教

関する件

波浮教会を会場に、第

を継続し、

講演原稿及びそ 伝道講演会開催

うか出版局に問い合わせ アイデアなので、可能かど 九月八日 (月)~ 九日

★「宣教一五〇年」事業に

しをアップすることも良い

総会期伝道委員会に委ねる

こととした。

第6回伝道委員会

教区で開催する方向で、検 〇九年度中に、今回は関東

の姿勢に感じるものがあっ

討する。詳細は次期、第36

た。

「農」に関する協議会関東教区での開催

検討

る協議会に関する件 二〇

道しようとされている先生るのではなく、積極的に伝職員に対して、憚り遠慮す

職員に対して、憚り遠慮す

★第36総会期「農」に関す

が開催された。

主な報告、

協議事項は以

続する。

牧師の体験的伝道論



77歳、体力・気力旺盛な石井錦-牧師

熱心とは言えなかったが、 てに通ったもので、決して 習後にいただくご飯を目当 出しのもとに、神学生時代、 習った体験談から始められ 教会員からピアノや茶道を て学んだこと、という小見 た。戦後間もなくの頃、練 力強く讃美の歌声が 神学生とし | 程を外した時、それと分か 怖じずに出られる程にはな そ教会員の狙いがあった 席は勿論、さまざまな席に 様に茶道も仕込まれ、茶の るようになった。 そこにこ このエピソードと、 後で気付かされる。 同

牧師としての歩みをただ を授けてくれたラング宣教 は、聖書以外の本は読んで ンダメンタルな信仰を抱い 師の思い出が重なる。 ファ 伝道に向かい合う際の基本 至るまで、説教そして牧会・ 言葉は、後々まで石井氏の になると、「あなたは悪魔で はならない」。道を逸れそう し、整えてくれた。今日に ていた師の信仰指導の基本 極端なようだが、この と言う叱責が待ってい

の基本となっている。 以上は、講演のほんの枕

ズルの部品のごとく組み合 っているようで、実は一本 されてはいないが全体を貫 ツに興味を惹かれているう エピソードは、ジグソーパ の筋が通っており、個々の 思い付くまま四方山話を語 ると思う。石井氏の講演は、 の部分だが、推察いただけ ちに、あまり表面に押し出 は一つもない。個々のパー わされていて、無駄なもの と、3 牧師としての学びの と唸るような、深い教訓が って考えさせられている、 とき、4 伝道者としての原 2 伝道者となって学んだこ 込められていた。 そのように受け止めた。 すと、腕組みしてなるほど れていたが、後で思い起こ いている主題を、一緒にな この後、話は佳境に入り、 終始、聴衆の笑い声に溢

片を紹介したい。

大島元村教会、伝道委員も真剣に聞き入る

きがあると見た一片を、

れない。それこそジグソー

会いまで矮小化するかも知 紹介すると、氏の体験・出

ハズルのパー ツを拾い上げ

尋常ではない特異な出会いの 点と続き、実に豊富な体験、

全体をミニチュア化して

えてしまうが、それを、

てはならない。

また、極めて印象的だっ

から当然のことであり、保

スト教主義で教育するのだ

の生きる目当てとならなく ない。十字架は、多くの人々

出席を約束して貰う。 キリ

際しては、礼拝出席を奨め、

思議とお腹を壊さない。 いしいと言って食べる。 るこの人は気付いていな

い。石井氏の目には黴が見

てる存在ではなくて、教え 同労者が、次々と登場する。 るかのようだ。 られ、育てられるものであ 育てられたことが強調され 道者として出会った信徒や た。牧師とは、人を教え育 ここでも、出会いによって

ることに、視力の弱ってい 日が経っており黴が来てい の最高のもてなしと、頂き 書を学んだ話。心待ちして 物の饅頭を勧めてくれる。 くれる患者が、この人なり 片は、結核病棟を訪ねて聖 ここで取り上げるべき

た。この出来事は、氏の、 に表すものだろう。常に、 | ~ | 階は保育所、

の人々に見えなくてはなら 隠されていてはなら

別に形が面白いと感じた一 る格好になるが、特別に輝 2 3 では、牧師・伝

ものを援用できる。 ゆる局面に対応し、全ての 立ち帰ることになる。基本 そこに立つ者だけが、あら の基本が大事、それを修め、 5 これからの伝道では、 ここでも、1の大前提に

護者のため伝道すべきと力 のため・働く人のため、保 社会施設に於いて、子供

な提言が述べられた。

でも多くの具体例、具体的 しての働きについて、ここ にとりながら、簡単・簡潔 地域社会での牧師と (新報編集部報)

大島元村教会 並河光雄牧師、現住陪餐会員55名、 朝礼拝出席平均29名、祈祷会6名、教会学校5名、東 海汽船大島元町港から、歩いても5分ほど、島の情緒 を味わうことが出来る。近くには源為朝の館跡も、



教 会 竹井真人牧師、現住陪餐会員32名、朝 礼拝出席平均15名、祈祷会4名、教会学校8名、東海 汽船大島元町港~大島バス・波浮港。かつては漁船で 溢れた港も、今は寂しく。小さいが綺麗な礼拝堂。

たようだ。 上には十字架が掲げられ 会の中にも強い反対があっ きが与えられ、幻が育てら 拝堂とする会堂建築を行っ 階建てのビルの最上階を礼 たが、粘り強く説得し、六 編集長として、出会い・働 多くの活動の場が与えられ が地域社会との接点となり た家庭集会のこと、保育所 との出会いは胃袋まで鍛え 十字架を高く掲げる。多く 伝道者としての姿勢を端的 れたことが述べられた。 末、最大時十五箇所もあっ たこと、そして、「信徒の友」 市の要望にも応え、役員 では、会堂建築の顛

保育所の職員採用試験に

術があるだろう、何より新 ることが肝要と提言した。 の充実、その他にも多くの コンの駆使、ホームページ えないとしながらも、パソ の要であった家庭集会によ しい伝道システムを構築す で分かったようなことは言 では通用しないと言い切っ る伝道を、当人が、社会や たことには、石井伝道方式 冢庭の有様が変化した現代 自分は得手ではないの 判する人は、むしろ経営の って教育する以上は当然の ためだけに幼稚園や保育園 あるが、キリストの名をも 教会には不要と、断じた。 を運営しているのではない ことであり、この姿勢を批 護者にも同様に礼拝・教会 て、信教の自由を言う人が を案内する。 この点に関し

い。給料ではなく謝儀、神 な信徒訓練の必要が語られ への感謝である。献金を例 いから献金意欲が湧かな た。本当の意味が分からな れづらい献金について述べ 立場にある者がなかなか触 か、そのようなものならば 信徒訓練では、牧師の

2008年9月27日

ミナール。11 回目となる今年は、8

月5日(火)~8日(金)にかけて、

大阪のいずみ教会を会場に、北は北

海道から南は九州まで、また遠くア

メリカからも参加者があり、計74名

今回のテーマは『めしまだかぁ?

マの意味は、ずばり「一緒にめし

まだやったらうちおいで~』このテ

を食う」ことです。これには、単に

机上の学びや研修に終わるのではな

く、共に食卓を囲んで語らい、一人

中から、被差別部落の置かれた歴史

いう、企画者の意図がありました。

また聖書では、差別や抑圧に苦しみ、

嘆く人々を招き、解放の場を先取り

して示した「イエスの食卓」を、今

この時代にあって大切にしたいとい

さて今回、その食卓に並んだ料理

てきた" さいぼし "や" あぶらかす "、

ブラジルの奴隷料理として伝えられ

るフェィジョアーダ(黒豆と豚の耳、

舌、干し肉などを煮たもの)などな

ど…差別や貧困、迫害という苦難の

フク(牛の内臓)の天ぷら"、また

う願いが込められていました。

人自分が「解放」される雰囲気の

「今」を感じる場をつくりたいと

で行なわれました。

部落解放青年ゼミナール

踊り、劇や

講座や狭山事件についての学習、フ ィールドワーク(現場研修)に加え、

参加者が自ら演じる参加型解放劇

一人一人が「解放」のテーマを歌や

Liberation Cup (リベレーション・カ

ップ、Liber ラテン語で「自由」の意

味)という時間も設けられ、真剣さ

と笑いとの絶えない雰囲気の中、4

日間があっという間に過ぎていきま

した。会場となったいずみ教会の礼

拝堂には、参加者が誰ともなく持ち

寄ったギター数本にマンドリン、チ

ェロ、一五一会(ギターのような新

楽器)に三線、ジャンベ、ウクレレ

など楽器の数々、常にどこかから音

楽が聞こえ、また真剣な語らいは毎

日夜遅くまで続けられていました。

総じて「青年ゼミ」のいい所は、

部落差別の歴史や今を、「知識」とし

て学ぶのではなく、その場にあって

具体的な一人の人の「生の声」と出

が用意されている点にあるのでしょ

今回も様々な良き出会いが与えら

(新堀真之報)

れたことに大きな感謝です。

一芸などで表現する

毎年夏に行われる部落解放青年ゼ ラムでは、例年通り行なわれる入門

は、この地方の被差別部落で食され 会い、自分自身が変えられていく場

岩

陸地震被災教会訪

一千八百万円が見

ながら再建に臨む事になっ

が、今回のできごとと信じ、

する者が、

第四条の規則

担、試験日程、時間割、全題、学科試験当日の責任分

学科試験当日の責任分

辞(代)山本光|

就(主)卜部康之

よって受験する事態が起き

試験を実施するためには、 ている。責任ある教師検定

北広島

辞(主)坂井賢治

就(代)福島恒雄

教師検定規則第四条を、

同

居住地に配慮すると、第一 ち方については、受験者の 議し、決定した。面接の持 体会と面接の持ち方等を協

辞(主)八木原敬一

就(主)坂井賢治

日目の方が大人数となり偏

よって、いくつかの教会が 六月十四日午前八時四三 害の大きかった陸前古川教 父親参観日に当たっていた 会 (大崎市)では幼稚園の 陸前古川教会、余震で被害拡 れた。栗駒方面の信徒の家師は信徒の安否確認に追わ

被災した。その中で最も被 が、急遽行事を中止し、 牧

쉿

建築した。その時に予算を 回の地震によって会堂は被 堂建築のために会員が新た 超えたため、二次計画の会 ルを始めた矢 った。 の の 向は29%の強度との診断だ る。一日も早い再建が教会 拝は園舎を借りて行ってい り禁止の状態。その後の礼 はないものの危険度BとC 診断は、すぐに倒壊する事 しまった事が挙げられる。 建物の重心が二つになって 頃に会堂を増築した際に、 補強工事もできず、立ち入 百%は確保できなか 礼拝堂に関しては、 補強工事を行ったも 縦方向は89%、

七月二〇日に行われた 員の祈りだ。

窓枠(左)や柱(右)に亀裂などの被害が大きい におよぶ。 った。会堂の各所には亀裂 には辿り着く事もできなか 余震や七月の地震で、被害 年に園舎の一部と牧師館を は拡大する方向にある。 管の修理も必要になった。 給湯器が三○㎝ も動き、配 最も大きい亀裂は、幅二の や漆喰の剥落が見られる。 陸前古川教会は一九九九 重さ三百キロの

の一つとして、一九七〇年 部園舎建築」を決議した。 被害が大きくなった原因

臨時教会総会で「会堂・一 大 諸経費を入れると、四千万 込みになる。瓦礫の撤去や に頼らなければならない見 円以上かかる可能性もあ තූ わせると千三百万円程にな 者からの献金の申し出と合 あと千五百万円を外部 計画を見直し、 縮小し

規の予約献金や幼稚園関係 込まれる。 自己資金は現在 五百万円集まっており、新 だと感じています」とは、 いる計算になる。「できるだ た。「自己努力で会堂を再建 関純一牧師の談である。 けの自己努力をしてきたの 会員は六千万円強を献げて の園舎建築と併せると、 も事実である。 しかし前回 すべき」という声がある事

すようにと押し出されたの 神によって建築に踏み出

る事を目標としている。 葉に、最も良いものを献げ

「試練を恵みへ」を合い言

陸前古川教会 16 大崎市古川中里1-0593) 1989-6143 0229-22-

> 事態を速やかに改善しなけ 旨に合わせて改正し、この 規則が本来意図していた主

若干の調整をすることとし りができるので、事務局で

横須賀学院中学·高校

(辻順子報)

からとなる。 〇一一年春季教師検定試験 改正規則による試験は、二 ればならない」。尚、この

献金振込先》02250

教師検定試験の準備を行っ

先ず、補教師受験志願

を行った。

の認定、転入志願者の審査

二本松 辞(主)小林友二郎

就(代)福島純雄

次いで、二〇〇八年秋季

神学校以外の神学校卒業者

長崎馬町 就(代)原 和人

就(主)山口元気

辞(担)外山志都子

都城城南 辞(代)南澤 望

就(教)吉住高志

また、教団立・教団認可

について、コース及び科目

秋季検定試験10名超える受験者 第 7 回教師検定委員会

者七四名の受験資格を確認 者二九名と正教師受験志願

今回申請書を提出した十九

受験費用援助に関して、

東北学院中学・高校

件について、これを検討し、

更に、

試験について次の

承認した。

今回も多くの受験志願者

検定委員会が、八月四日 会議室において、委員七名 全員が出席して行われた。 (月) ~ 五日 (火)、教団 第35総会期 第七回教師 月十四、 告があった。これは、[提 件」が承認されたことの報 師検定規則改正に関する 員会からの提案である「教 十五日)で、 合を前提にしている。しか た者が大学院に進学した場 検定規則改正の提案であ る。「教師検定規則第四条 るに、近年神学部を卒業せ

神学部の学部を卒業し

再建に必要な資金として | いて、第五回常議員会 (七 ていることに基づく、 案理由] に次のように述べ

ずに神学部の大学院を卒業

した。続いて、学科試験問

(倉橋康夫報)

提出者等、それぞれを確定

神学論文等)の採点結果を

先ず、提出物 (釈義、説教、 ように協議をし、決定した。

突き合わせ、合否判定、再

主の祝福と支え・導きを祈

ています。受験準備の上に、 が与えられたことを感謝し

アメリカから 17 名の参加者があり、 計 74 名の参加。近年一番多い参加者数。

の数々です。参加者は -つ一つの料理の 説明と、それが食され る経緯について学びつ つ、「味わう」ことを通 して、被差別の歴史を 学ぶことができまし またその他のプログ

> た。七七年から花輪教会を 局校教務教師として奉職し

富士見町就(担)橋本いずみ

皷

八二年から本庄旭

遺族は

池袋西 弓町本郷

就(担)小西

仙台青葉荘就

担)森田聖子

就(主)伊藤大道

町西野添五-二〇-一三

妻の繁子さん。 教会牧師を務めた。

歴史の過程で生まれ、 受け継がれてきた「ソ

ウルフード(心の料

理)」ともいうべき料理

九七一年東京神学大学大学 七月三〇日、 山形県に生まれる。

逝去。 六四 安 積 " //

船橋 仙台北三番丁 辞(代)平井孝次郎 皷 代)木下宣世

辞(兼主)河野孝也

敬和学園大学 南 就(主)倉橋克人 就(主)加藤智恵 辞(主)佐藤七海 健 (主)佐藤 健 那覇中央 辞(代)金城重明 就(主)徳舛和祐 北星学園大学·短期大学部

就(主)久保礼子

隠退より復帰

古堅宗伸 樋口誠

福島恒雄

就(担)藤井清邦就(担)洪 徳憙 中部学院大学 東洋英和女学院大学 就(教)三上 章 辞(教)三上 章

八ヶ岳

伝道所開設

潟教会牧師として務め、新

安藤記念就(担)五十嵐成見

皷

教)大澤秀夫

小高教会、東新

津教会を兼牧し、山形学院

洗足

銀 座

(代)ロバート・ 就(教)笠井惠二 辞(教)梶原 壽 ウィットマー 播磨町 兵庫県加古郡播磨 桶川 桶川市下日出谷西三 山梨県北杜市明野町 伝道所所在地名変更 浅尾新田 | | | | | | | |

広島牛田 隠岐 就(担)木村弘美 就(主)今井靖清 就(担)宮田 征 就(主)小西陽祐 辞(代)今野善郎 就(主)小林 充 代)大須賀豊稚

齊藤康彦氏(本庄旭教会牧

教師異動

消息

就(教)鳴海としゑ 辞(代)太西高雪群(代)釜土達雄

遺愛女子中学·高校

教師隠退

就(主)難波真実

辞(代)久世そらち

坂出大浜 名古屋 多度津 ″ 斑 辞(主)中村 告就(代)寺島 謙辞(兼主)榎本栄次 就(担)中村 告 就(土)福田 哲 就(代)田中寿明就(担)佐野公淳群(主)榎本栄次就(担)佐野公淳田(本)城口 誠

カナダ合同教会の派遣宣教師とな

経験によって育てられました。 道

センターの働きは幅広いです

一九七三年に結婚し、圭子も

幌で、浦河出身の木戸圭子と出会

北星学園大学に赴任しました。 札 んだ後、教育宣教師として札幌の

と道北センター に二人で向かいま

農村センター としての使命と小規

が、その中心となっているものは

模教会との宣教協力です。

農村センター として三愛塾運動

九七五年に今働いている名寄

た。その後、カナダの神学校で

学ぶことがあり、また数回の本国

着した時、二一歳になったばかり 会派遣宣教師として羽田空港に到

九六九年九月にカナダ合同教

の青年でした。 東京で日本語を学

か」という気持ちになります。

宣教師からの声

乳と蜜の流れる豊かな地

ウィットマー・ロバート ウィットマー・圭子

情を学ぶプログラムを企 日本の農村および食糧事 教会において世界、また などに協力しています。

画し、また年に一回「聖

開く他に、全道の農場を

訪問 (年に四十件ほど)

農村レシピの本作り

区は広く、 演会を開いています。 書と農業」をテーマに講 道北地

思いますが、しかしここで自分の ると、もう動いた方がいいと度々 可能性が生かされていると思う時 間「道北」そして道北センターが 活動がありましたが、この三三年 ちはだれのところへ行きましょう であります。 同じ所に三三年もい 私たちの心の故郷であり、働き場 トロのように「主よ、わたした 教会として歩んで あって一つである に教会の働きと関 長でありながら常 ば、道北センター館 要です。キリストに ので宣教協力が必 ます。考えてみれ 会が多い教

(第三種郵便物認可)

るされることならもう少し道北で 会のセンター は足一本を教会にお 道北センターが大好きです。 教 います。圭子も多く処かの教会の代務 以上道北地区の の教会に関わって わりをもち、二十年 ます。圭子も多く 師として働いて

2007年8月、9年ぶりに名寄に家族全員が集った時の写真 ネイスン、 圭子の母、

伝えることが出来ます。 私たちの かる福音を地域の人々と分かち合 って生かされています。教会が預 もたらしてくれた多くの出会いと 信仰、また宣教理解はセンターが がらその両方で働いている神によ い、また地域社会の課題を教会に もう一本を地域社会におきな 教会がとても元気でいきいきして の礼拝は休まずに行われ、小さ て専任の牧師がいない時も各教会 きました。このような協力によっ

を知ることができました。 名寄に 葉の面白さ、大切さ、またその力 翻訳作業をした友だちを通して言 います。その小さな教会にいつも て、日本とカナダのキリスト教 北星学園大学にいる時、一緒

神のまことの「言」の力を思わさ 日本語が北京語に、また韓国語に るために、平和を作り出すために、 訳をする機会が与えられている事 関係書物の英訳・和訳に関わる事 通訳される不思議な経験をしまし 手と口が少しでも用いられている また神の愛を伝えるために自分の は大きな喜びです。 人々がつなが ができ、また多くの国の人々の诵 ことを願うだけです。最近、私の その時、すべての隔てを壊す

内また道外の多くの農民

とつながりを持っていま

年に二回の三愛塾を

土を愛する) を通して道

神を愛し、人を愛し、

章38節)恵みが与えられる地です。 入れ、あふれるほどに」(ルカ6 う時もありますが、「道北」は私 たちにとって「押し入れ、揺すり つらい事もあり、やめたいと思 れた『教団部落解放方針』の 具体化として「部落解放祈 センターは、二〇〇〇年七月 十二日、常議員会で可決さ 祈っていただくことをお願い 一点あります。 たものでした。その趣旨は

りの日」運動を開始した。そ の常議員会であったことを覚 五年七月十四~十五日開催 始が定められたのが一九七 部落差別問題について教団と 祈りの日」の日程については、 ス、七月の第二主日とするこ 動をどのように進めるのかを 実施を依頼し、それをもとに れにあたり、まず有志教会に て組織的な取り組みの開 て「部落解放祈りの日」運 「部落解放

二〇〇八年度の『祈りの 大阪教区部落解放委

部落解放のための祈りの日



が七月第二主日に各地で行 部落解放祈りの日」礼拝 部落差別を無くすため、

道所へご依頼しました。 これ 落解放祈りの日」礼拝の実 伝道所で部落解放のために 施を七月十三日に教会・伝 は、七月の第二主日に教会・ 部落解放センターは、「部 部印刷し各教会・伝道所:

落完全解放を目指して取り 伝道所と連帯して今後も部 活発に行い、各地の教会・ の取り組みの推進」をより 団部落解放方針」に基づい て「部落差別に対する教会 部落解放センターは「教

参加者二一名で席上献金 洋一教師が司会を、小林明 日いずみ教会で行いまし 放祈りの日」礼拝を七月六 教師が説教を行いました。 バンフレット」を用い樋口 阪教区部落解放委員会) 新 た。(共催:いずみ教会、大 は、今年も独自の「部落解 「『部落解放祈りの日』運動 また、部落解放センター

員会(樋口洋一委員長)が 昨年度何度も会議を重ね作

国各地で実施された報告書 がセンター に届いていま ンフレットが用いられ、全 パンフレットを約三五〇〇 成してくださいました。こ 有志へ送りました。 このパ の新『祈りの日礼拝』運動」

部落解放

組んでいきます。

三、六二三円を部落解放セ

丸亀、多度津、その先は愛媛、 徳島へと至る。 また西に行くと 内海に沿って東に行くと高松、 国、坂出に着く。 坂出から瀬戸 岡山から瀬戸大橋を渡り、

平野にあり、一つの文化圏と言 津はそれぞれに海を望む、讃岐 ってよいだろう。 松山である。坂出、丸亀、多度

くのときをここで生活してき のたときだけである。 大学で学ぶために広島へ行った た。この土地を長く離れたのは 局校で英語教師として働きはじ ときと、その後、広島・因島の れ育ち、これまでの人生で、多 合田さんは、この文化圏に生

とをきっかけに、故郷、香川で 俊、丸亀出身の妻と結婚したこ 広島での四年ほどの働きの

なった。母と祖父母が商売を営

受けた。広島では大学に数人の 活の交わりの中で大きな影響を 居していた柳井永真太さんは、 多度津教会員だった。 日々の生 みながら育ててくれた。 家に同

の教員採用となった。その後、 貫して香川の学校教師として

キリスト者の友人がいた。

彼ら

からも良い感化を受けた。

ったのは、幾人かのキリスト者 田さんが教会に導かれ洗礼に至 宗のお寺だった。その中で、合 真言宗の強い土地柄である。ま 寺がある。弘法大師の生誕地、 勤め上げた。 との出会いがあったからだ。 た、結婚した妻の実家は浄土真 多度津、 小学校三年生のとき父が亡く 丸亀の近くには善通

通うようになった。 一九五八年

んの勧めもあって多度津教会に

結婚して香川に帰り、柳井さ

春のこと。翌年、受洗した。

きを受けた。合田さんにとって 会員の野田恒子さんから良い導 丸亀高校への転勤に伴い、丸 ?田さんが信仰の母だ。」 柳井さんが信仰の父であり、 教会に行くようになって、教

いできた。教会学校校長は退い の人たちに伝えるためである。 る。それは、受けたことを、次 たが、今も一教師として奉仕す 亀でも教会学校の奉仕に力を注 教会に転会。多度津でも、丸

教会に神学生が生まれたからであ る。神学生の奉仕として、その教 教会は牧師の生活を支える予算 今年度になって当 る。牧師が病気等で講壇に立てな 区協力伝道資金を立ち上げた。地 区における新年合同礼拝の席上献 用として用いることが目的であ 金を協力伝道資金にしたのであ くなったとき、他の教師を招く費 そのような問題が有るので、

教務教師は招きやすいが、現職の

会に派遣したのである。

いて礼拝をささげている。牧師の

毎年八月の講壇は他の教師を招

ができたのは、

休養のためでもある。 隠退教師や

教師はなかなか困難である。 出身

示されたことは、教会の祈りで



昭三さん 合田

受くる幸い、伝える 幸い



講壇を

る。しかし、発足して十八年も経

を招くとき、予算上苦しくなる。 牧師が病気やその他で講壇に立て 上げなければならない。他の教師 なくなっても、 が組めない場合が多い。例えば、 牧師の謝儀は差し

で精一杯であり それ以上の予算

招いた教師への謝礼は、牧師が他

依頼することになるが、その場合、 会では、当日の講壇を他の教師に くことができた。本人が仕える教 た。ところが、今年はようやく招 度か交渉したが実現できなかっ 牧師を招きたいと、これまでも幾

もらいたいとの事なのである。 の教会で受けた謝礼を差し上げて

今年、その出身牧師を招くこと

となる教会がいくつかあったのだ つのに利用した教会はない。 対象

週の講壇を祈っているのである。 ある。牧師の回復を祈りつつ、毎 教団総会書記 鈴木伸治)